

の統一を要求する處に生まれた神人合一の境地を如實に見出し、それを如實に表現する聖者の出現を熱望してゐた民衆、これを了知したのは實に大聖釋尊であつた。亦民衆は哲學的に眞理を探究する事より、現世に於て幸福に生活する事が最も緊要切實な問題であつた。この目的遂行に最も必要なのは人倫道德の普及である。茲に民衆は思想上のあらゆる疑問を氷解してくれると同時に實踐的に必要欠くべからざる人道宣傳の爲に身命を捧げる聖者の出現を望んで已まなかつた。

此の瑞雲に乗じて現れたのが、所謂大聖釋迦、イエス、マホメット、孔子、ソクラテス、日蓮等の宗教的哲學的天才であつた。民衆は雲を作り、天才は雲を雨として降らす。民衆と天才の差は是のみである。雲も雨も同一水であり、民衆も天才も同じ人の子である。想ひ茲に至つて生命の深さと人生の眞劍味を轉た思はざるを得ない。

## 微 笑

福 山 一 步

紅梅の音なく散つて宿暮るゝ

村の子に神樂賑ふ豊のあき  
野遊びや女學生徒の喰ひ自慢  
野遊びや子は劍戟の群に入る  
野遊びのはるかに聞きし午砲哉  
飯事の女王椿の首かざり  
桃活けて床に正せし琴の位置  
椿咲く庭に小猫の陽浴かな  
控わめに咲きてやさしき野梅かな  
刈り終てホット一息麥の畔  
先生のなれぬ手付や田植時  
忍び泣く悲戀の夜半や不如歸

